TRIBUNE SHIKOKU
編集部では、読者の皆さんからの情報提供や投稿を募集しています。また当社HP上にて、NET-NEWS（￥8,400）を設け、最新情報を発信しています。
情報提供や購読希望の方はご連絡ください。
☎ (088)664-5004
FAX(088)664-4809
E-mail-tribune@mail.planning21.ne.jp

トリビューン tribune しこく

《毎月5・15・25日発行》
発行所 ㈱トリビューンしこく
〒770-0874 徳島市南沖洲2丁目4-10
電話(088)664-5219 FAX(088)664-4809
年間購読料 7,500円
阿波銀行県庁支店/口座番号・普通0318279
徳島銀行県庁支店/口座番号・普通5283742
郵便振替口座/01650-6-22468

昭和31年2月27日 第三種郵便物認可 第1629号 令和8年4月25日（土曜日）
【掲載記事、写真等の無断転用を禁止します】

自然が生き活き、人が輝く交流の郷
三好市
祖谷のかずら橋
大歩危

とりびゅーん・しこく
「民間団体である徳島県漁連の製氷・冷凍施設の更新に公金を投入するのか」と疑問を呼ぶ（公財）徳島県漁業振興基金。四月末に設計業者選定の入札公告。予算は七、六五四万円。財源は三十六億円の基金から取り崩した十二億円。

職員の長時間労働問題で徳島労基署が立入調査を行った徳島商工会議所。管理職の課長がサービス残業を強いられている「名ばかり課長」問題が改善され、四月から課長にも残業代が支給されるようになったという。

「地方創生の鍵は地域資源の掘り起し」まちづくりで対談

「地方創生の鍵は地域資源をどう掘り起こすか」。阿波市の町田寿人市長が岐阜県高山市の田中明市長を表敬訪問。観光誘客やふるさと納税、行財政改革などまちづくりについて話し合った。「小京都と言われる高山市の地域資源を官民連携で磨き上げたい」と語る田中市長。町田市長は「メインは農業立市。新しい観光拠点も整備し、市内外に発信したい」とまちづくりビジョンを強調した。両市長の対談は阿波市を地盤とする故金子一平元大蔵大臣と後る山口俊一衆院議員と高山市を地盤とする故金子一義元国交相、継者である金子一義元衆院議員の人脈で実現した。

飛騨国で構成され、現在も県南部の美濃地方と県北部の飛騨地方に大別される。美濃地方の中心が岐阜市、飛騨地方の中心が高山市だ。

阿波市は徳島県北東部。人口約三万三千人。国天然記念物の土柱や四国八十八ヶ所霊場で知られる。農業が盛んでレタスやなすの生産量は中四国トップクラス。「農業立市」のまちづくりが進んでいる。

高山市、阿波市とも平成十七年の市町村合併で現在の形になった。高山市は九町村の編入合併。阿波市は四町の対等合併だ。一般会計の予算規模は高山市が九百億円、阿波市が二百億円だ。

両市長の対談をセッティングした山口衆院議員からは「対談を契機に交流推進を」との親書が町田市長に託され、高山市役所で町田市長が田中市長に手渡した。

昨年の観光客数約四七九万人の高山市。外国人宿泊者数は約九十八万人。徳島県全体（約二十三万人）の四倍強だ。

「古い街並みや伝統文化、食べ物などを求めて多くの方が観光に来て頂いていると思います。街を歩いて楽しんで頂けるのが高山市の特長かなと思います」（田中市長）。

人気スポットが市内中心部の古い街並み。江戸時代の商家建築が連なる伝統的建造物群保存地区だ。細長い街路の両側に酒蔵や味噌蔵、土産物店、飲食店が軒を連ねる。

人力車も走る。外国人がベアシートに座り、カタコト英語の車夫がガイドする。着物姿の外国人も街を散策する。「街歩きプラン」と言われる和服のレンタルサービスだ。

外国人宿泊者で最も多いのが台湾で年間約十二万人。次いで中国、米国、スペイン、英国、タイ、豪州。最近では欧米からの観光宿泊者の伸びが目立っているという。

「海外プロモーションの効果です。旅行会社とか民間主導でやってもらいました。行政は経済行為ができませんので、民間の方々がどれだけやられるかにかかっています」（田中市長）。

田中市長は元市職員。定年退職後、インバウンド誘客を専門とする旅行会社を立ち上げた。飛騨・高山観光コンベンション協会の専務理事も務めた。観光プロモーションのプロだ。

祇園祭の山鉾制作や漆塗りの春慶などで知られる「飛騨の匠」も観光資源だ。高山祭の屋台にも匠の技が生かされているが、今年は中東情勢の悪化で約四千人の宿泊キャンセルが発生したという。

空港がないのにインバウンド客が殺到する高山市

インバウンド誘客のトップランナーである高山市。最大の要因は取り組みの早さだ。国が観光立国宣言をしたのが平成十五年。高山市は十八年前の昭和六十年に国際観光都市宣言を行っていた。

国や他自治体に先んじてインバウンド戦略に着手した高山市。多言語パンフレット等情報発信の拡充、通訳案内士等受入体制の強化、他県と連携した広域観光ルートの整備を進めた。

「高山だけじゃなくて、松本とか金沢とか県境を越えて一緒にやっていこうということです。岐阜には空港がありませんが、成田や羽田からインバウンド客が訪れてくれます」（田中市長）。

空港がない高山市を訪れる約九十八万人のインバウンド客。

観光交流拠点で魅力発信目指す農業立市の阿波市

▲「既存の観光交流資源を磨き上げるとともに、新しい観光拠点を整備したい」と語る町田市長（右）。田中市長は「空港がなくてもプロモーション次第で客はきます」とエールを送る。

国際観光都市に磨きをかける小京都の高山市

▲「古い街並みなど街を歩いて楽しんで頂けるのが、高山の特長です」と語る田中市長（右）

観光拠点の整備を検討する阿波市、「農業立市」もバージョンアップ

国際観光都市を推進する高山市。「空港がなくてもインバウンド客は来る」との田中市長の言葉に触発されたのか、町田市長も観光拠点整備のビジョンを語った。

「阿波市には土柱やたらいうどん、御所の郷、遍路道等既存の観光交流資源があります。それらを磨き上げるとともに、新しい観光拠点を整備する予定です」（町田市長）。

新拠点は現在、原案を検討中とのことだが、今年中に完成予定の徳島自動車道の阿波・市場スマートICと関連した観光交流や物産販売の拠点整備をイメージしているようだ。

農業のまちとして知られる阿波市。野菜ではレタスやなす、さやえんどうの生産量が全国トップクラス。果物ではぶどうやいちご、メロン、フルーツトマト等の生産が盛んだ。

「消費者に安心・安全な農産物を提供するために、農産物のブランド化や特産品認証を推進しています。販売促進では、国道沿いのフルーツロードをPRしています」（町田市長）。

フルーツロードは国道二一八号線沿いに立ち並ぶ直売店の通称。春はいちご、秋はぶどう。朝採れの新鮮な果物が店頭に並び、朝から多くの買い物客で賑わう。

「高山市はトマトやリンゴで有名ですが、フルーツロードのいちごやぶどうなど阿波市の果物も絶品です。一度阿波の新鮮な味覚を味わってください」（町田市長）。

町の美観と生活環境守るポイ捨て禁止条例

高山市の古い街並みを視察した町田市長は、路上にごみが少なく、美観が保たれていることに感銘を受ける。田中市長によると、答えはごみのポイ捨てや路上喫煙を禁止した条例だ。

「条例は平成二十年に制定されました。市全域でたばこの吸い殻や空き缶などのポイ捨て、飼い犬の糞の放置などを禁止しています。違反したら千円の過料が科せられます」（田中市長）。

阿波市も高山市に先んじて平成十七年にごみのポイ捨てとふん害防止の条例を制定している。過料は五万円以下。市民への条例の浸透度は国際観光都市の高山市が先行しているようだ。

高山市では秩序ある都市景観の創出にも取り組んでいる。美しい景観と潤いのあるまちづくり条例だ。平成二十九年からは太陽光発電所の設置禁止地区を設けている。

「観光都市にふさわしいまちづくりを進めるための基本方針です。古い街並みも条例で建物の高さを制限するなど、調和の取れた美しい景観づくりを進めています」（田中市長）。

行財政改革で目指す行政サービスの効率化

財政改革も議論された。民間のノウハウを活用した行政サービスの効率化だ。高山市では全国で初めて水道事業に指定管理者制度を導入。施設管理の統一とコスト縮減に取り組んでいる。

「下水道も企業会計にしたんですけど、なかなか採算性が取れないのが実情です。行財政改革では公共施設や学校の統廃合なども今後やらないといけない課題です」（田中市長）。

阿波市も昨年度に五年間の行財政改革推進プランをまとめている。最大の課題が公共施設の老朽化対策。公共施設の適正な配置と管理で行政サービスの向上を目指している。

「行政施設の約半分が築四十年を経過しています。高山市のように市民や利用者に十分説明を重ねながら、思い切った行財政改革を実施したいと考えています」（町田市長）。

（次号に続く）

展望・美馬市長選

現職が再選するか、対抗馬が出現するか。九月十三日投開票の美馬市長選。加美一成市長（六八）は六月議会で再選出馬を表明予定。対抗馬と噂された市議はトーンダウンした模様だ。前市長のプロジェクト継承を掲げてスタートした加美市政。一期目四年間の実績を市民がどう評価するか。

加美市長

再選出馬確実な加美市長、出現するか対立候補

加美市長は正式表明はまだだが、再選出馬は確実だ。六月市議会で表明すると見られる。対抗馬に市議の名前が取り沙汰されたが、四月市議選後にトーンダウンした。

加美市長は元市職員。副市長時代に市長選に出馬。三つ巴の選挙を制して初当選した。地元は穴吹町。専修大商学部卒。市職員時代は財政課長や政策監を歴任した政策通だ。

一期目の市政運営は、前市政が着手したプロジェクトの継承をベースに、地域経済の活性化、人口減少や超高齢化対策、国や県と協調した「美馬市強靭化」に取り組んだ。

完成した新し尿処理施設、「MIMAKA（みまか）」で地域経済活性化

前市政のプロジェクト継承では、懸案のし尿処理場が完成した。つるぎ町と構成する吉野川環境整備組合の施設。老朽化した施設を汚泥再生処理センターとして新しく整備した。

処理するのは美馬市とつるぎ町の住民が排出するし尿と浄化槽汚泥。最新の処理方式を導入。環境に配慮した施設が誕生した。運営はクボタ環境エンジニアリングに委託する。

地域経済活性化では、デジタル地域通貨「MIMAKA（みまか）」の運用を開始した。市内加盟店だけで使える電子ポイントカード。市民にカードを配り、買い物等でお金を循環させる。

導入から昨年末までの決済額は累計で二十億三千八百万円を超えた。カードが使えるのは市内約二百五十店舗。行政主導のデジタル地域通貨が市民生活に定着している。

「MIMAKA（みまか）」は物価高騰対策にも活用されている。国の重点支援地方交付金を財源として、市民一人につき、「MIMAKA（みまか）」ポイント一万二千円分が付与された。

正規職員全員が防災士資格取得、広がる防災意識

防災対策では市職員の防災士資格取得を推進した。防災士はNPO法人日本防災士機構の認定資格。災害時は救助・救命活動、平時は防災意識の啓発や防災訓練等に取り組む。

美馬市は令和三年度から取得率百%を目指し、職員に研修を行った。今年二月、市長をはじめ正規職員三六人全員が資格を取得。市職員と防災士の二刀流職員が活躍している。

市民の健康増進策では、みまコンディショニングプログラム（みまコン）が好評だ。コンディショニングは心身の状態を整えるために必要な睡眠、栄養、運動等の総称。

美馬市ではトレーナー資格を持つ地域おこし協力隊が九週間の「みまコン」を開催。肩こり対策など健康づくりに関心のある市民が参加している。参加料は無料だ。

高山市に本山を構え四十二年の宗教真光。他の新興宗教同様、色眼鏡で見られがちですが、観光スポットとして紹介されたり、地域社会との協働や環境問題への取り組みでも注目を集めています。

一例が高市との避難所利用協定です。高山市と宗教真光は令和二年十月に協定を締結。災害時に宗教真光の一部を避難所に利用することを取り決めました。

第一神殿は八千人が収容できる巨大施設です。令和二年に完成しました。神殿は檜で作られ、内装には栖や杉の木が使われています。飛騨の匠を呼ばれる名工たちが腕を振るいました。

自然エネルギーの活用も特長です。敷地内に太陽光発電、木質バイオマス発電を導入し、水素発生装置で生成した水素を貯蔵するなど再生可能エネルギーを組み合わせた施設です。

第一神殿は自由に見学できます。一階にある神殿には八千人が座れる木製の長椅子がぎっしりと設置されています。舞台の祭壇には創設者の写真。壮大なスケール感に圧倒されます。

案内役は同業務の女性スタッフ。宗教真光の教義や行事、第二神殿の特長などを懇切丁寧に説明してくれます。見学者の質問にも臨機応変に対応してくれます。

説明によると、第一神殿の後方では、世界総本山の改修工事が進んでいます。第一神殿の八千人を上回る九千人を収容できる巨大施設です。来年十月に完成予定です。

「世界総本山が完成したら、第一神殿は多目的施設として市民に活用される予定です。災害時の救護施設に活用されたり、ゲートボールやイベントも開催できます」（スタッフ）。

カルト体質や錬金術が批判されがちな新興宗教。吉野川市の幸福の科学は市にトイレ整備の寄付を行いましたが、宗教真光のように地域と協働する公益活動は展開されているのでしょうか。

▲来年10月完成予定の世界総本山。

燻る反対運動 新ごみ処理施設

住民対応問われる新ごみ処理施設

一期四年間でまちづくりを前進させた加美市政だが、懸案もある。新ごみ処理施設の整備事業だ。阿波市との境に近い脇町西赤谷で計画を進めるが、市民の反対運動が起こっている。

処理方式はごみを燃やさない発酵乾燥方式。阿波・上板、小松島・勝浦が広域整備する処理方式と同じ。ダイオキシンは発生しないが、自治体での実績が少ないのが不安材料だ。

市長選出馬が取り沙汰された市議は新ごみ処理施設反対の急先鋒だった。はたしてごみ処理施設が市長選の争点になるのか。「ごみを制する者はまちを制す」という格言が加美市長に突きつけられている。

まちづくり進めた加美市長

国際観光都市に磨きをかける小京都の高山市

▲「古い街並みなど街を歩いて楽しんで頂けるのが、高山の特長です」と語る田中市長（右）

町の美観と生活環境守るポイ捨て禁止条例

高山市の古い街並みを視察した町田市長は、路上にごみが少なく、美観が保たれていることに感銘を受ける。田中市長によると、答えはごみのポイ捨てや路上喫煙を禁止した条例だ。

「条例は平成二十年に制定されました。市全域でたばこの吸い殻や空き缶などのポイ捨て、飼い犬の糞の放置などを禁止しています。違反したら千円の過料が科せられます」（田中市長）。

阿波市も高山市に先んじて平成十七年にごみのポイ捨てとふん害防止の条例を制定している。過料は五万円以下。市民への条例の浸透度は国際観光都市の高山市が先行しているようだ。

高山市では秩序ある都市景観の創出にも取り組んでいる。美しい景観と潤いのあるまちづくり条例だ。平成二十九年からは太陽光発電所の設置禁止地区を設けている。

「観光都市にふさわしいまちづくりを進めるための基本方針です。古い街並みも条例で建物の高さを制限するなど、調和の取れた美しい景観づくりを進めています」（田中市長）。

行財政改革で目指す行政サービスの効率化

財政改革も議論された。民間のノウハウを活用した行政サービスの効率化だ。高山市では全国で初めて水道事業に指定管理者制度を導入。施設管理の統一とコスト縮減に取り組んでいる。

「下水道も企業会計にしたんですけど、なかなか採算性が取れないのが実情です。行財政改革では公共施設や学校の統廃合なども今後やらないといけない課題です」（田中市長）。

阿波市も昨年度に五年間の行財政改革推進プランをまとめている。最大の課題が公共施設の老朽化対策。公共施設の適正な配置と管理で行政サービスの向上を目指している。

「行政施設の約半分が築四十年を経過しています。高山市のように市民や利用者に十分説明を重ねながら、思い切った行財政改革を実施したいと考えています」（町田市長）。

（次号に続く）

観光交流拠点で魅力発信目指す農業立市の阿波市

▲「既存の観光交流資源を磨き上げるとともに、新しい観光拠点を整備したい」と語る町田市長（右）。田中市長は「空港がなくてもプロモーション次第で客はきます」とエールを送る。

国際観光都市に磨きをかける小京都の高山市

▲「古い街並みなど街を歩いて楽しんで頂けるのが、高山の特長です」と語る田中市長（右）

観光拠点の整備を検討する阿波市、「農業立市」もバージョンアップ

国際観光都市を推進する高山市。「空港がなくてもインバウンド客は来る」との田中市長の言葉に触発されたのか、町田市長も観光拠点整備のビジョンを語った。

「阿波市には土柱やたらいうどん、御所の郷、遍路道等既存の観光交流資源があります。それらを磨き上げるとともに、新しい観光拠点を整備する予定です」（町田市長）。

新拠点は現在、原案を検討中とのことだが、今年中に完成予定の徳島自動車道の阿波・市場スマートICと関連した観光交流や物産販売の拠点整備をイメージしているようだ。

農業のまちとして知られる阿波市。野菜ではレタスやなす、さやえんどうの生産量が全国トップクラス。果物ではぶどうやいちご、メロン、フルーツトマト等の生産が盛んだ。

「消費者に安心・安全な農産物を提供するために、農産物のブランド化や特産品認証を推進しています。販売促進では、国道沿いのフルーツロードをPRしています」（町田市長）。

フルーツロードは国道二一八号線沿いに立ち並ぶ直売店の通称。春はいちご、秋はぶどう。朝採れの新鮮な果物が店頭に並び、朝から多くの買い物客で賑わう。

「高山市はトマトやリンゴで有名ですが、フルーツロードのいちごやぶどうなど阿波市の果物も絶品です。一度阿波の新鮮な味覚を味わってください」（町田市長）。

町の美観と生活環境守るポイ捨て禁止条例

高山市の古い街並みを視察した町田市長は、路上にごみが少なく、美観が保たれていることに感銘を受ける。田中市長によると、答えはごみのポイ捨てや路上喫煙を禁止した条例だ。

「条例は平成二十年に制定されました。市全域でたばこの吸い殻や空き缶などのポイ捨て、飼い犬の糞の放置などを禁止しています。違反したら千円の過料が科せられます」（田中市長）。

阿波市も高山市に先んじて平成十七年にごみのポイ捨てとふん害防止の条例を制定している。過料は五万円以下。市民への条例の浸透度は国際観光都市の高山市が先行しているようだ。

高山市では秩序ある都市景観の創出にも取り組んでいる。美しい景観と潤いのあるまちづくり条例だ。平成二十九年からは太陽光発電所の設置禁止地区を設けている。

「観光都市にふさわしいまちづくりを進めるための基本方針です。古い街並みも条例で建物の高さを制限するなど、調和の取れた美しい景観づくりを進めています」（田中市長）。

行財政改革で目指す行政サービスの効率化

財政改革も議論された。民間のノウハウを活用した行政サービスの効率化だ。高山市では全国で初めて水道事業に指定管理者制度を導入。施設管理の統一とコスト縮減に取り組んでいる。

「下水道も企業会計にしたんですけど、なかなか採算性が取れないのが実情です。行財政改革では公共施設や学校の統廃合なども今後やらないといけない課題です」（田中市長）。

阿波市も昨年度に五年間の行財政改革推進プランをまとめている。最大の課題が公共施設の老朽化対策。公共施設の適正な配置と管理で行政サービスの向上を目指している。

「行政施設の約半分が築四十年を経過しています。高山市のように市民や利用者に十分説明を重ねながら、思い切った行財政改革を実施したいと考えています」（町田市長）。

（次号に続く）

燻る反対運動 新ごみ処理施設

住民対応問われる新ごみ処理施設

一期四年間でまちづくりを前進させた加美市政だが、懸案もある。新ごみ処理施設の整備事業だ。阿波市との境に近い脇町西赤谷で計画を進めるが、市民の反対運動が起こっている。

処理方式はごみを燃やさない発酵乾燥方式。阿波・上板、小松島・勝浦が広域整備する処理方式と同じ。ダイオキシンは発生しないが、自治体での実績が少ないのが不安材料だ。

市長選出馬が取り沙汰された市議は新ごみ処理施設反対の急先鋒だった。はたしてごみ処理施設が市長選の争点になるのか。「ごみを制する者はまちを制す」という格言が加美市長に突きつけられている。

まちづくり進めた加美市長

再選出馬確実な加美市長、出現するか対立候補

加美市長は正式表明はまだだが、再選出馬は確実だ。六月市議会で表明すると見られる。対抗馬に市議の名前が取り沙汰されたが、四月市議選後にトーンダウンした。

加美市長は元市職員。副市長時代に市長選に出馬。三つ巴の選挙を制して初当選した。地元は穴吹町。専修大商学部卒。市職員時代は財政課長や政策監を歴任した政策通だ。

一期目の市政運営は、前市政が着手したプロジェクトの継承をベースに、地域経済の活性化、人口減少や超高齢化対策、国や県と協調した「美馬市強靭化」に取り組んだ。

完成した新し尿処理施設、「MIMAKA（みまか）」で地域経済活性化

前市政のプロジェクト継承では、懸案のし尿処理場が完成した。つるぎ町と構成する吉野川環境整備組合の施設。老朽化した施設を汚泥再生処理センターとして新しく整備した。

処理するのは美馬市とつるぎ町の住民が排出するし尿と浄化槽汚泥。最新の処理方式を導入。環境に配慮した施設が誕生した。運営はクボタ環境エンジニアリングに委託する。

地域経済活性化では、デジタル地域通貨「MIMAKA（みまか）」の運用を開始した。市内加盟店だけで使える電子ポイントカード。市民にカードを配り、買い物等でお金を循環させる。

導入から昨年末までの決済額は累計で二十億三千八百万円を超えた。カードが使えるのは市内約二百五十店舗。行政主導のデジタル地域通貨が市民生活に定着している。

「MIMAKA（みまか）」は物価高騰対策にも活用されている。国の重点支援地方交付金を財源として、市民一人につき、「MIMAKA（みまか）」ポイント一万二千円分が付与された。

正規職員全員が防災士資格取得、広がる防災意識

防災対策では市職員の防災士資格取得を推進した。防災士はNPO法人日本防災士機構の認定資格。災害時は救助・救命活動、平時は防災意識の啓発や防災訓練等に取り組む。

美馬市は令和三年度から取得率百%を目指し、職員に研修を行った。今年二月、市長をはじめ正規職員三六人全員が資格を取得。市職員と防災士の二刀流職員が活躍している。

市民の健康増進策では、みまコンディショニングプログラム（みまコン）が好評だ。コンディショニングは心身の状態を整えるために必要な睡眠、栄養、運動等の総称。

美馬市ではトレーナー資格を持つ地域おこし協力隊が九週間の「みまコン」を開催。肩こり対策など健康づくりに関心のある市民が参加している。参加料は無料だ。

高山市に本山を構え四十二年の宗教真光。他の新興宗教同様、色眼鏡で見られがちですが、観光スポットとして紹介されたり、地域社会との協働や環境問題への取り組みでも注目を集めています。

一例が高市との避難所利用協定です。高山市と宗教真光は令和二年十月に協定を締結。災害時に宗教真光の一部を避難所に利用することを取り決めました。

第一神殿は八千人が収容できる巨大施設です。令和二年に完成しました。神殿は檜で作られ、内装には栖や杉の木が使われています。飛騨の匠を呼ばれる名工たちが腕を振るいました。

自然エネルギーの活用も特長です。敷地内に太陽光発電、木質バイオマス発電を導入し、水素発生装置で生成した水素を貯蔵するなど再生可能エネルギーを組み合わせた施設です。

第一神殿は自由に見学できます。一階にある神殿には八千人が座れる木製の長椅子がぎっしりと設置されています。舞台の祭壇には創設者の写真。壮大なスケール感に圧倒されます。

案内役は同業務の女性スタッフ。宗教真光の教義や行事、第二神殿の特長などを懇切丁寧に説明してくれます。見学者の質問にも臨機応変に対応してくれます。

説明によると、第一神殿の後方では、世界総本山の改修工事が進んでいます。第一神殿の八千人を上回る九千人を収容できる巨大施設です。来年十月に完成予定です。

「世界総本山が完成したら、第一神殿は多目的施設として市民に活用される予定です。災害時の救護施設に活用されたり、ゲートボールやイベントも開催できます」（スタッフ）。

カルト体質や錬金術が批判されがちな新興宗教。吉野川市の幸福の科学は市にトイレ整備の寄付を行いましたが、宗教真光のように地域と協働する公益活動は展開されているのでしょうか。

▲来年10月完成予定の世界総本山。

地域共生を模索、注目される「観光スポット」

「神殿を避難所に」高山市と協定

崇教真光（すうきょうまひかり）って存知ですか。「真光の業」と呼ばれる手かざしで魂を浄化する新興宗教です。創設者は岡田光玉氏。昭和五十九年、高山市に総本山を建立しました。

基本理念は世界平和の実現です。手かざしで魂を浄める「健（無病化）」「和（無対立）」「富（脱貧）」の三つが揃い、人にもともと備わっていた「神性」が復活すると説いています。

春と秋には大祭が行われ、世界中から信者や参拝者が高山市に押し寄せます。キリスト教のバチカン、イスラム教のメッカのように、宗教イベントによるインバウンド効果です。

手かざしに邁和感を覚える方は多いと思われます。手かざしを行うためには拝み霊が必要とされますが、この拝み霊は三日間の初級研修で誰でも取得できるようです。

高山市に本山を構え四十二年の宗教真光。他の新興宗教同様、色眼鏡で見られがちですが、観光スポットとして紹介されたり、地域社会との協働や環境問題への取り組みでも注目を集めています。

一例が高市との避難所利用協定です。高山市と宗教真光は令和二年十月に協定を締結。災害時に宗教真光の一部を避難所に利用することを取り決めました。

第一神殿は八千人が収容できる巨大施設です。令和二年に完成しました。神殿は檜で作られ、内装には栖や杉の木が使われています。飛騨の匠を呼ばれる名工たちが腕を振るいました。

自然エネルギーの活用も特長です。敷地内に太陽光発電、木質バイオマス発電を導入し、水素発生装置で生成した水素を貯蔵するなど再生可能エネルギーを組み合わせた施設です。

第一神殿は自由に見学できます。一階にある神殿には八千人が座れる木製の長椅子がぎっしりと設置されています。舞台の祭壇には創設者の写真。壮大なスケール感に圧倒されます。

案内役は同業務の女性スタッフ。宗教真光の教義や行事、第二神殿の特長などを懇切丁寧に説明してくれます。見学者の質問にも臨機応変に対応してくれます。

説明によると、第一神殿の後方では、世界総本山の改修工事が進んでいます。第一神殿の八千人を上回る九千人を収容できる巨大施設です。来年十月に完成予定です。

「世界総本山が完成したら、第一神殿は多目的施設として市民に活用される予定です。災害時の救護施設に活用されたり、ゲートボールやイベントも開催できます」（スタッフ）。

カルト体質や錬金術が批判されがちな新興宗教。吉野川市の幸福の科学は市にトイレ整備の寄付を行いましたが、宗教真光のように地域と協働する公益活動は展開されているのでしょうか。

見つけた!! 街角美人 №164

飛騨高山の宮川の清らかなせせらぎに、ひときわ鮮やかに映える朱色の高欄。高山市の象徴として愛される「中橋」で出会ったのが今回の街角美人。ボーイフレンドと旅行中のフィンランド人女性。さわやかな風に吹かれ、古い町並みの風情を楽しんでいた。

「エクセレント！」と言いながら写真を撮り、目を輝かせて高山のすばらしさを語る彼女は、北欧の女性らしく透き通って抜けるような白い肌。不躾ではあるが視線が釘付けになるほどだ。二十代後半と思われるが、美しいブロンドヘアの三つ編みが可愛らしく清々しい美女だった。

あなたの情報大募集!!
秘密厳守
守秘義務の徹底で情報提供者の方を必ずお守りいたします。
本紙記者が取材し、公益に反する問題点を徹底追及します。情報提供は本紙HPの情報提供フォームの他、メール、FAXでもお受けします。メールの場合は「返信先アドレス」をご記入ください。G-mailでも構いません。
「身元がバレるのでは」と懸念されるかも知れませんが、情報提供者のプライバシーは厳守しますので、ご安心ください。
社会に警鐘を鳴らす内部告発や情報提供をどしどしお寄せください。
〒770-0874
徳島市南沖洲2丁目4-10
㈱トリビューンしこく編集部
FAX：088-664-4809
TEL：088-664-5219
Eメール：tribune@mail.planning21.ne.jp
本紙ホームページ内の［情報提供］からも投稿できます。

購読料：年間 8,400円
トリビューン・電子版 tribune.web
購読申し込み頂くと、スマートフォンやタブレット、PCで最新号の閲覧ができます。ネットニュース（速報）もトリビューン電子版で。
お申し込みはHP www.planning21.ne.jp/tribune/ の申し込みフォームから

くねくね探訪団 岐阜・下呂温泉 進化する「下呂膏」

▲昭和初期から販売された下呂膏。肩こりや腰痛、神経痛に効く生薬配合の貼り薬だ。

樹皮を生薬に変える伝統技法

くねくね探訪団、今回は下呂温泉。岐阜県中部に位置し、草津、有馬と並ぶ日本三名泉だ。地域資源を掘り起こし、現代風にアレンジする「温故知新」の企業活動で知られる。

象徴例が下呂膏だ。樹木を原料にした生薬配合の貼り薬（膏薬）だ。腰痛や肩こり、関節痛、神経痛に効果がある。相撲力士が愛用したことで知られる伝統ある貼り薬だ。

明治時代に下呂の接骨医「奥田又右衛門」が開発し、昭和初期から販売された。子孫が秘伝を引継ぎ、現在は株式会社奥田又右衛門膏本舗が製造販売を行っている。

下呂膏の秘伝は生薬成分と和紙だ。主な生薬は「黄柏（オウバク）」と「楊梅皮（ヨウバイヒ）」。黄柏は落葉樹のキハダ、楊梅皮は常緑樹のヤマモモの樹皮が原材料だ。

和紙は美濃和紙。楮（こうぞ）を主な原料にした和紙だ。「縦揺り」と「横揺り」のミックスという伝統技法で作られる。薄くて丈夫、耐久性があるのが特徴だ。

天然の植物成分を柔らかくて丈夫、肌になじむ美濃和紙に塗り伸ばした下呂膏。山林資源活用の背景にあるのが、御嶽山の麓という下呂温泉のロケーションだ。

下呂膏には「黒」「白」「緑」の三種類がある。黒の下呂膏は昔ながらの定番。白の下呂膏は慢性的な痛み、緑の下呂膏は関節の腫れなど急性症状に効くと言われる。

相撲力士が愛用した定番貼り薬として知られる下呂膏。お試し使用した徳島県民からは「痛みがすっと取れた」「貼ったら、肩が軽くなった」と上々の評価だ。

貼り薬だけでなくコスメ商品も開発

山林資源を薬用貼り薬に生かした下呂膏。定番商品の伝統を守るだけでなく、「温故知新」のキーワードで、消費者のニーズに対応したコスメ商品の開発にも取り組んでいる。

スキンケアでは、化粧水や石鹸、パフなどだ。人気を呼ぶのが薬用化粧水「楊貴肌（ようきはだ）」。薬用の保湿成分を配合し、肌に潤いを与える。イメージは楊貴妃だ。

ボディケアでは入浴剤やアロマシートだ。「下呂膏物語なごみシリーズ」と名付けられたアロマシートは、天然精油のほのかな香りが癒し効果をもたらしている。

下呂膏物語なごみシリーズはおもてなし日本実行委員会の「おもてなしセレクション」で二年連続金賞を受賞するなど、日本を代表する商品として高く評価されている。

美と健康のコスメ業界にも進出する下呂膏。自社ブランドだけでなく、他企業のオリジナルコスメづくりをサポートする「OEM製造」の分野も乗り出している。

薬用貼り薬からコスメ、OEMへと進化する下呂膏。豊潤な山林資源と生薬づくりの伝統技法がコラボした温故知新マインドが、日本三名泉の下呂温泉で息づいている。

力士間で好評の貼り薬 コスメにも活用される生薬づくりの伝統技法

お鶴記者が行く！「手かざし」の崇教真光 No.12

SUKYO MAHIKARI

所在地：岐阜県高山市上岡本町2丁目596-1

後藤田知事は外国人宿泊者数が県全体で年間二十三万人泊と強調するが、空港もなく人口たった八万人の高山市は、市単独で九十八万人泊と徳島県の四倍強。